

第6回三重河川流域委員会の議事要旨 【補足資料】

平成25年1月17日

1) 勢田川における水質改善の取り組みと 水質変化について

勢田川における水質改善の取り組みと水質変化

(1) 勢田川における水質改善の取り組み

① 導水

【導水条件】

浄化導水は宮川右岸7.4kより導水しており、導水条件は以下のとおり。

最大導水量 1m³/s

運用時間 8:00~18:00

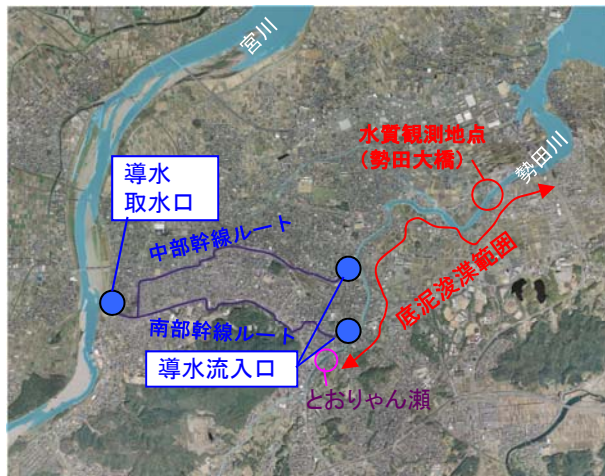
運用条件 岩出地点流量 6~300m³/s

【導水実績】

- ・平成5年より暫定運用、平成12年より本運用を開始している。
- ・平成17年までは、平日のみの運用であったことから、導水量が少なくなっている。

② 底泥浚渫

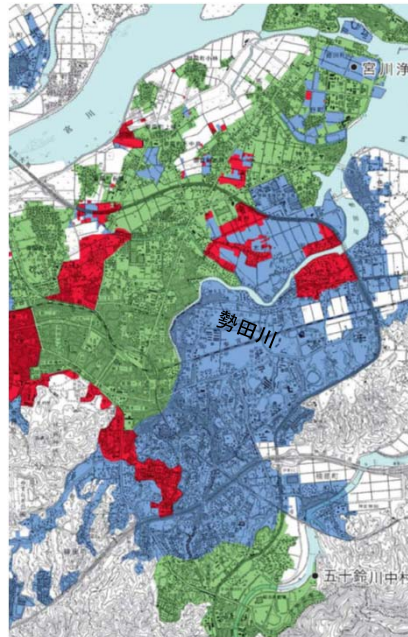
勢田川1.4~5.6kの範囲で底泥を浚渫



導水及び底泥浚渫の位置図

③ 下水道の整備

平成18年度以降、勢田川流域の下水道を整備(平成23年度時点で26%)



計画(予定)区域	色
全体計画区域	青
既認可区域 ※1	緑
第3期事業計画区域 ※2	赤
農業集落排水区域 (供用済)	黄
浄化センター	●

平成23年3月31日現在

※1 既認可区域(緑)とは平成22年度を目標に整備を進めてきた区域(第1・2期事業計画区域)で、そのほとんどの区域はすでに供用しています。

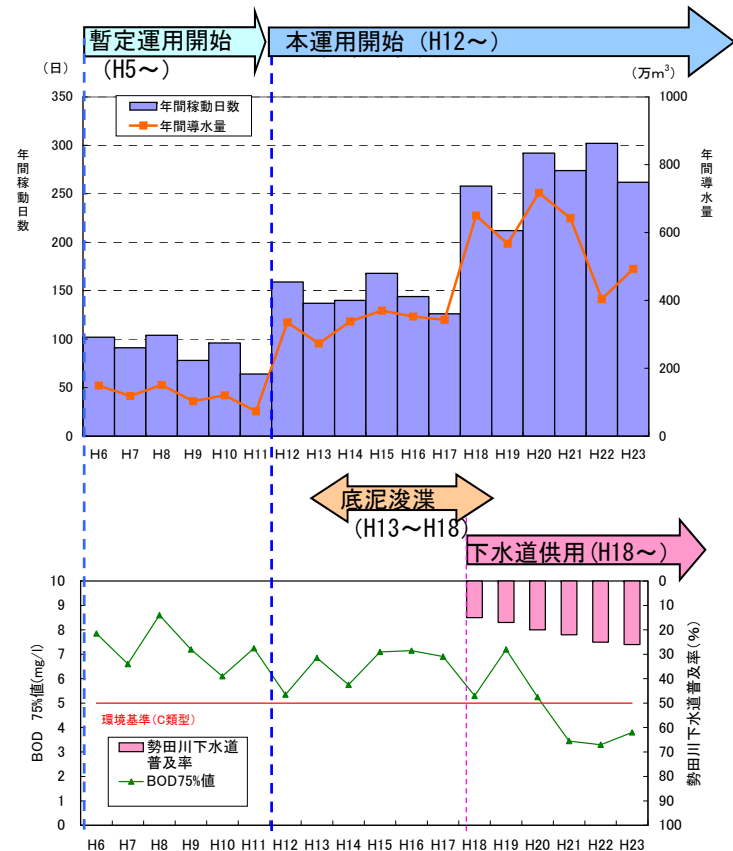
※2 第3期事業区域(赤)は平成27年度を目標に整備を進めていく区域で、すでに供用している区域も一部含まれています。

下水道の計画区域(供用区域含む)

出典:伊勢市の下水道計画

(2) 導水による水質改善の効果

- ・勢田大橋におけるBOD75%値は経年的に低下傾向にあり、平成21年以降は環境基準を下回っている。
- ・勢田大橋におけるBOD75%値の低下は、平成5年以降に開始された導水による水質の改善効果であると考えられる。
- ・その他に、近年の勢田川流域の下水道普及率の向上、底泥浚渫も水質改善に寄与していると考えられる。



浄化導水運用実績(上)と

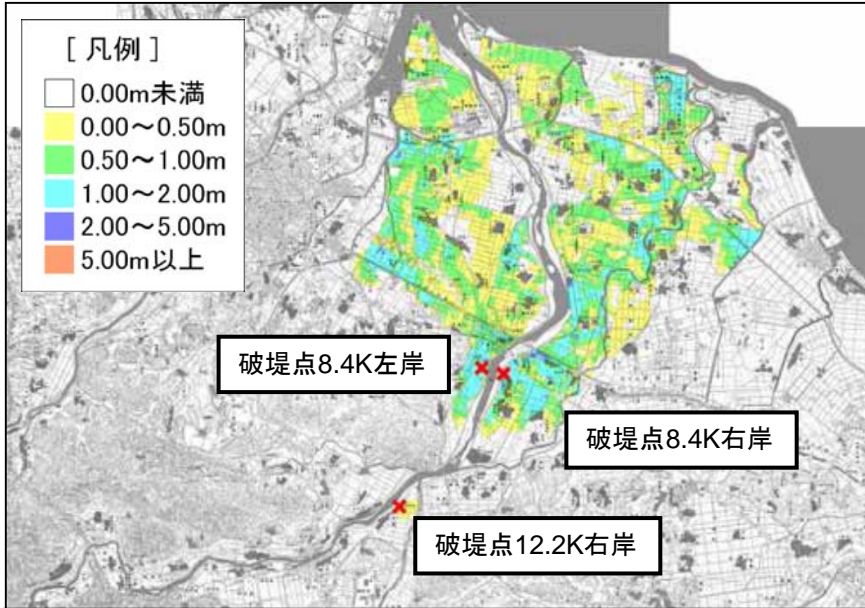
勢田大橋におけるBOD75%値の経年変化(下)

2) 櫛田川における想定浸水被害の算定方法

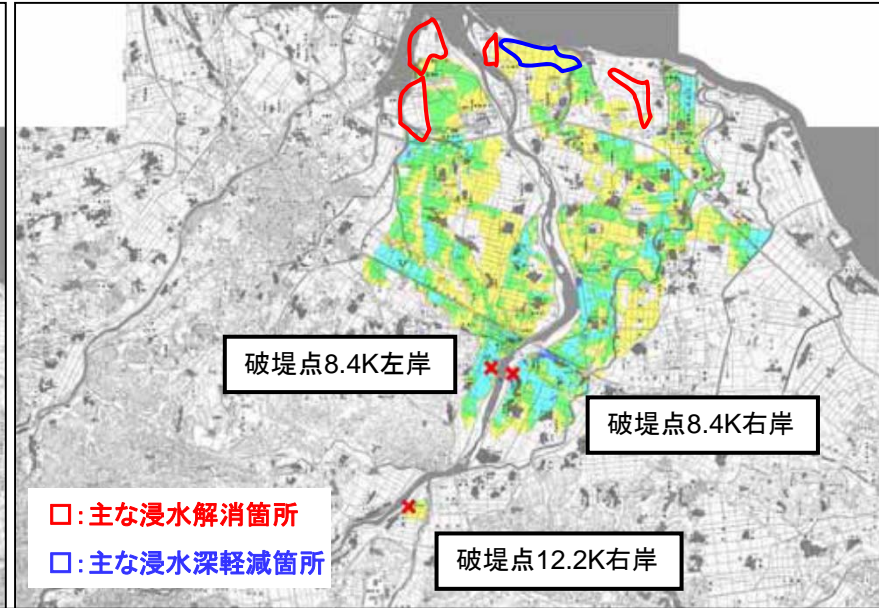
想定浸水被害の算定

● 想定浸水区域図(整備計画目標流量に対する浸水状況)

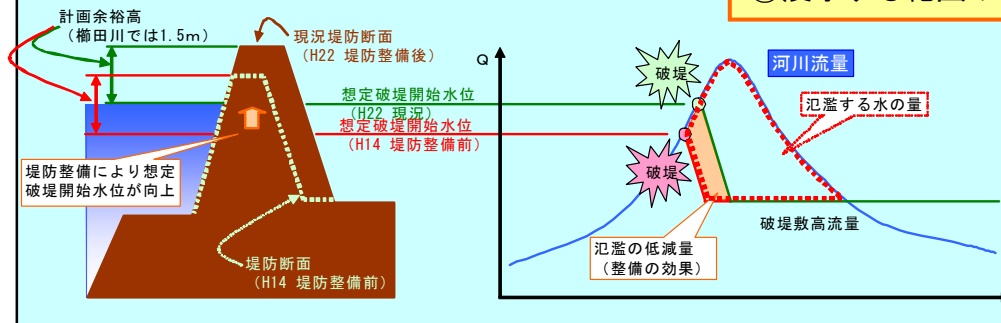
① 整備計画策定時点(H14)の浸水状況図



② 現況河道(H22)の浸水状況図



堤防整備実施による効果
(治水安全度向上と浸水被害低減のイメージ)



- ① 堤防整備の実施により、整備計画策定時(H14)から現況(H22)で治水安全度が向上する。
- ② 治水安全度が向上すれば、破堤しにくくなり、氾濫する水の量が減少。
- ③ 浸水する範囲や浸水する深さが低減し、被害額が減少する。

整備計画目標流量に対する被害状況

	整備計画策定時 (H14年)	現況河道 (H22年)	差分
想定浸水面積	約29km ²	約26km ²	▲約3km ²
想定被災人口	約7,200人	約6,500人	▲約700人
想定被害額	約360億円	約331億円	▲約29億円